山際塾長のこだわり教育論 8

小学校・新教科書と塾の学習

平成１７年度より文部科学省の学習指導要領のあり方が根本的に変わり、教科書が一変されました。

学習指導要領は「学習目標」ではなくて「最低基準」を示すもの、と方向転換され、各教科書会社が、規制をあまり受けずに自由に教科書を創作できるようになりました。「最低基準」さえ満たせば、その上乗せは各教科書会社の自由選択となったのです。

その結果、これまでは、６種類もの教科書も、どれも似たりよったりだったのが、教科書によって指導方針や学習目標が大きく変わることになりました。

算数の場合、私たちの京田辺・八幡の地域の採択は「啓林館版」です。啓林館版では、たとえば４年生では、４けたの割り算は「÷１けた」のみです。「４けた÷２けた」と「４けた÷３けた」は、他の６種の教科書ではすべて登場するのに、啓林館版のみ削減されています。この学習項目は啓林館版では５年生でも６年生でも登場しませんので、他の教科書との差は歴然です。

また、分数もほんの入門だけで、全て５年生以上に先送りという姿勢です。以前にあった同分母帯分数どうしの加減も削減されています。

また６年生では、「三角柱の求積」を他の教科書では扱っているのに、啓林館版だけありません。また三角柱、円柱の展開図も扱われていません。

しかし、これらのことは、ほんの一例ですし、他社の教科書に比して啓林館版が総じて特に程度が低いとか「発展的内容」が少ない、というわけではありません。啓林館版にあって他社版にない、という学習項目も他にたくさんありますし、各教科書によっていろいろと複雑に相違して、総合的にはどれがレベルが高い低いかは一概には言えません。

学校間の格差が当たり前に

　このように、各出版社によって教科書の内容に違いがあっても、レベルの高低は一概に決めることはできません。ただ言えることは、今年度からは、学校によって、また教科書によって、あるいは教師によって習う内容が全く違う、という現象が当たり前になる、という現実です。これまでは長年にわたり我が国では、多少の進度の速い遅いはあっても、どこの学校でもどの教科書でも日本全国、そう大差がありませんでしたが、今年度からは大きな違いが生じてくるのです。

やまぎわ塾のカリキュラム

　そこで私たち未来教育やまぎわ塾では、啓林館版の教科書の内容はあくまでも「最低限の基礎学力」として定着させることは当然として、他社の教科書で扱われている学習項目は、（啓林館版の教科書で削減されていても）全て標準的な学習項目としてカリキュラムに載せ、標準的に教え履修させます。

　これは、全国レベルの学力テストの対策でもありますし、中学・高校・大学と進学したときに、他の学校・地域の出身者と比べて抜け落ちがあってはならないということもあります。

　これまでも、当塾では全ての教科で、学校で習う以上のことがらを、教え習得させてきました。１７年度の改訂を受けて、これからは、今まで以上に「学校では習わない学習内容を塾では教え習得させる」という項目が増えることになります。子どもの為には、中学入学後や将来の入試等を考えれば、当然のことです。

子どもたちに確かな学力を

　－学校で習うことは最低限の基礎、それに何をどうプラスして学ぶか－

このことはむろん小学生の間だけのことではなく、中学教育にも及んでいくことでしょう。大学入試のレベルは教科書改訂の影響でさほど変わることはありませんし、国際間の競争という視点から見てもますます学力の持つ意義は高まってきています。

時代は、ますます公立学校だけでは安心できない教育状況に急速に変化しています。学習塾の役割と期待が高まっています。こうした中で、子どもたちに真の確かな学力を、間違いなく身につけさせることは、私たちの義務だと思います。

私たちやまぎわ塾教師スタッフ一丸となって、子どもたちのために、いっそう献身的に奮闘し未来の教育を創っていく決意です。